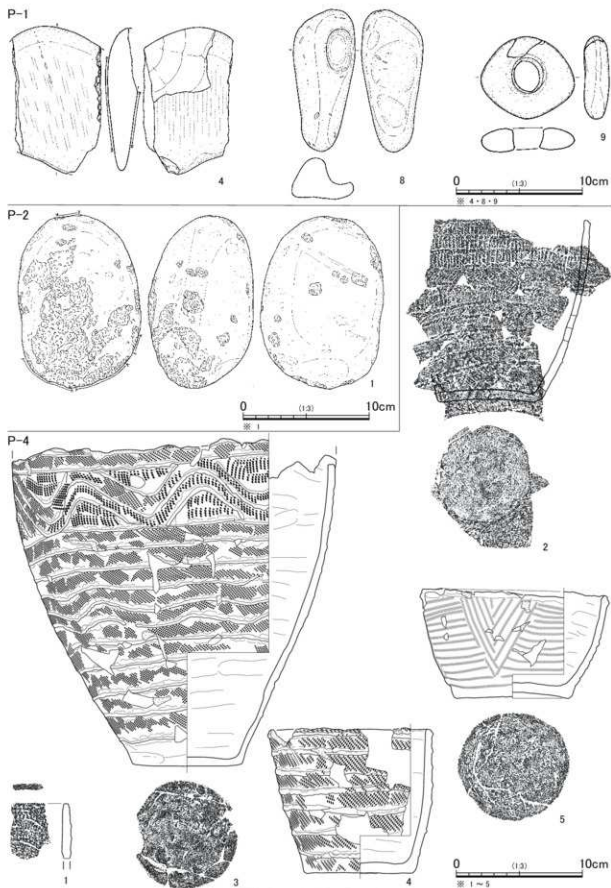
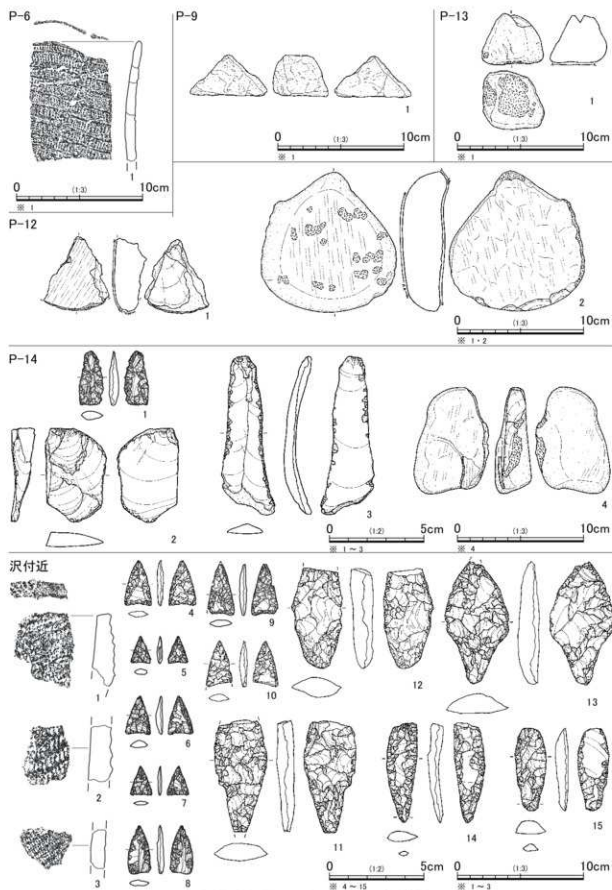


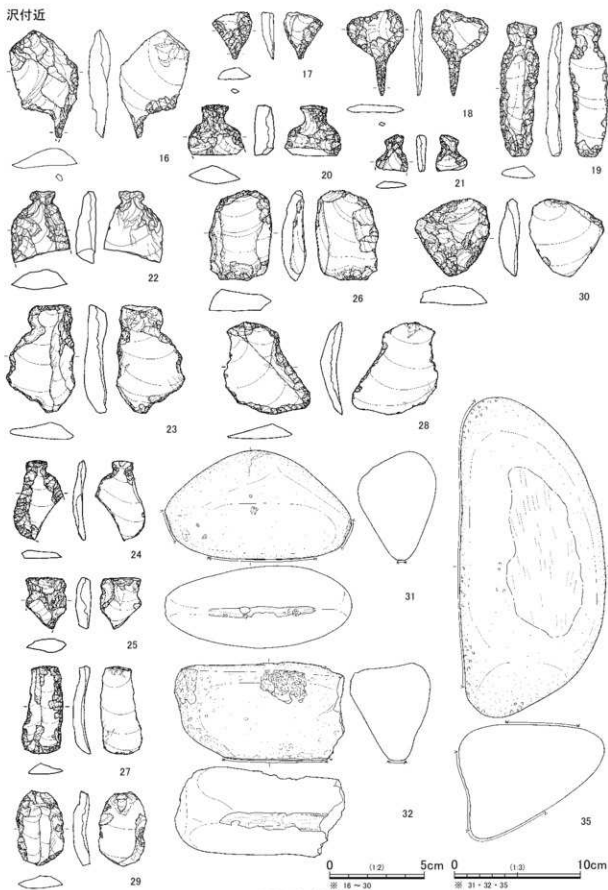


図V-14 P-1・2・4



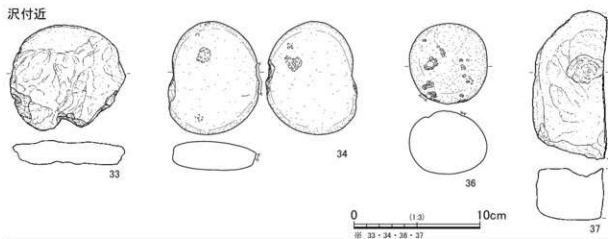
図V-15 P-6・9・12~14・沢付近

沢付近

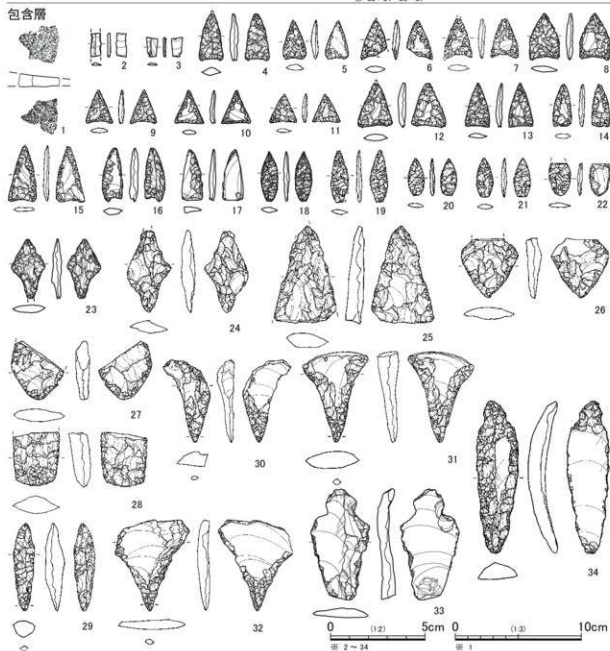


図V-16 沢付近

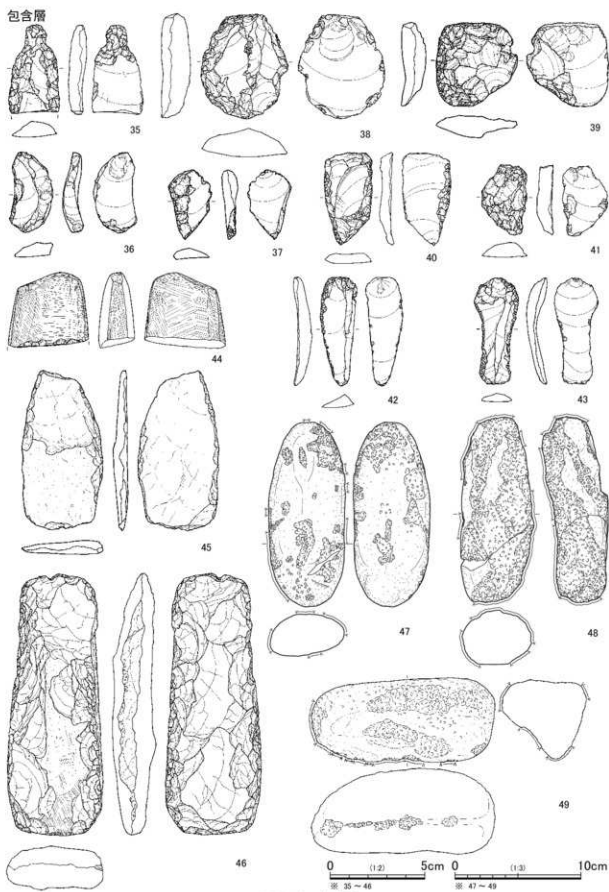
沢付近



包含層

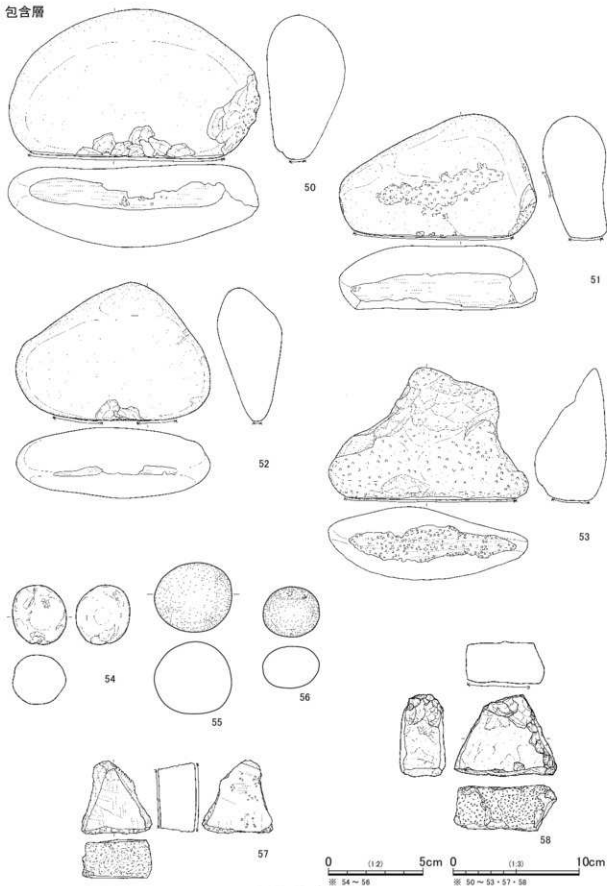


図V-17 沢付近・包含層



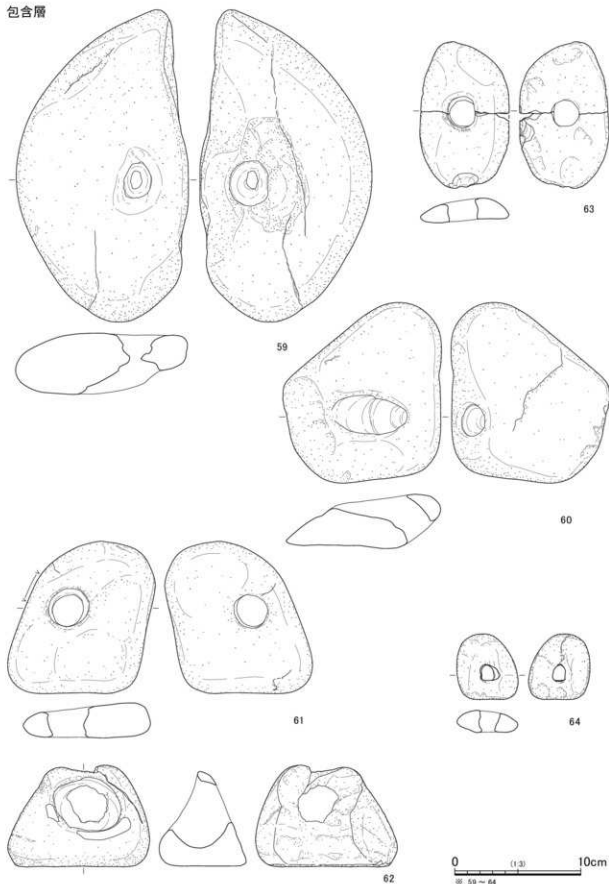
図V-18 包含層

包含層



図V-19 包含層

包含層



図V-20 包含層

表V-1 揭載土器一覽表

[illegible]

表V-2 實測石器一覽表

図	番号	遺構名	層位	調査区	分類	長さ×幅×高さ	重量 (g) ; 容 (kg)	材質	取り上げ遺物 番号	備考
V-1	1	H-1	地土上層	H2	黄砂	4.3×2.2×0.8	4.2	漂礫石	562	
	2		地土中層	H2	灰ブルーイタ	4.2×2.5×0.9	6.3	漂礫石	230	
	3		地土下層	H2	灰ブルーイタ	6.2×3.7×0.8	19.2	漂礫石	506	
	4		地土上層	G2	細長割片	(5.7)×2.3×0.95	(8.8)	漂礫石	133	
	5		地土中層	G2	細長割片	5.56×2.1×1.15	8.0	漂礫石	132	
	6		地土中層	G2	たたき石	5.24×1.62×1.24	5.4	漂礫石	793	
	7		地土上層	G3	たたき石	8.7×6.95×3.7	250.0	円縁石	428	
	8		地土上層	G4	台石	8.6×16.3×5.1	780.0	砂岩	1825	
	9		床面	G5	右石	19.95×(1.95)×0.2	1.210	粘板石	1822	
	10		地土下層	G6	圓石	14.8×7.2×5.85	760.0	砂岩	1799	
V-2	4	H-2	地土中層	J1	細長割片	1.9×0.6×0.3	0.3	漂礫石	532	
	5		地土中層	J1	石礫	2.91×1.3×0.25	1.0	漂礫石	147	
	6		砂礫上	J1	石礫	(2.5) × (0.95) × 0.25	(0.5)	漂礫石	812	
	7		砂礫上	J1	石礫	(2.72) × 1.13 × 0.25	0.7	漂礫石	832	
	8		砂礫上	J1	石礫	(1.41) × 0.9 × 0.22	(0.3)	漂礫石	826	
	9		地土中層	J1	石礫	4.76×2.4×1.3	10.5	漂礫石	528	
	10		地土下層	J1	石礫片	(3.53)×(1.3×0.8)	(3.0)	漂礫石	553	
	11		地土下層	J1	石礫	2.7×0.9×0.58	1.4	漂礫石	880	
	12		砂礫上	J1	石礫片	(2.95) × 1.15 × 0.7	1.7	漂礫石	911	
	13		地土上層	J1	側沿	4.7×2.5×1.1	9.2	漂礫石	519	
V-3	14	H-3	床面	J1	側沿	6.1×4.8×0.8	18.5	漂礫石	616	
	15		床面	J1	側沿	5.2×2.5×0.7	7.9	漂礫石	824	
	16		地土中層	J1	細長割片	7.85×2.4×1.24	13.0	漂礫石	139	
	17		地土上層	J1	たたき石	13.1×5.6×4.8	680.0	円縁石	263	
	18		地土上層	J1	砥石	8.6×7.35×1.85	161.9	粘板石	1801	
	19		地土下層	J1	台石	24.3×13.2×8.7	3.4*	花崗岩	1852	
	20		砂	J1	台石	27.3×15.4×9.5	6.0*	花崗岩	1848	
	21		地土下層	J1	浮子波群石製品	8.9×4.15×3.3	17.56	緑石	1806	
	22		地土中層	J1	浮子波群石製品	5.5×4.1×1.9	8.66	緑石	1864	
	23		地土下層	J1	浮子波群石製品	4.9×3.45×2.4	7.22	緑石	1807	
V-3	24	H-3	砂礫上	J1	西側彫小石	2.3×2.2×1.4	12.9	メノウ	1854	
	25		砂礫上	J1	勾玉状小石	1.9×1.35×0.55	3.71	砂岩	1840	
	26		砂礫上	J1	勾玉状小石	2.95×2.35×1.1	10.3	砂岩	1844	
	6		地土上層	L1	石礫	2.0×0.9×0.4	0.6	漂礫石	254	
	7		地土中層	L1	石礫	2.2×1.2×0.3	0.5	漂礫石	592	
	8		地土中層	L1	石礫	2.06×1.23×0.27	0.5	漂礫石	842	
	9		床面	L1	灰ブルーイタ	4.0×3.1×0.8	8.3	漂礫石	1708	
	10		床面	L1	ナガフ影	(4.09) × 3.15 × 1.21	(14.4)	漂礫石	1707	
	31		床面	L1	灰ブルーイタ	6.0×2.5×1.3	17.4	漂礫石	1535	
	32		地土下層	L6	側沿	6.9×3.3×1.5	25.1	漂礫石	1305	
33	床面	L6	側沿	6.9×3.3×1.2	19.4	漂礫石	1050			

図	番号	遺構名	層位	調査区	分類	長さ×幅×高さ	重量(g) : * (kg)	材質	取り上げ遺物番号	備考
V-4	14	H-3	床面	L0	細長割片	7.08×2.40×1.2	15.2	黒曜石	1323	
	15		床面	L0	細長割片	8.1×2.4×1.34	12.0	黒曜石	1431	
	16		埋土上層	L0	たたき石	12.8×4.9×3.5	320.0	陶磁器	1820	
V-5	17	H-3	埋土中層	L0	すり石	6.3×8.95×3.5	226.9	粘板岩	1860	
	18		床面	L0	すり石	10.4×9.5×4.65	550.0	花崗岩	423	
	19		床	L0	石石	22.8×19.1×12.7	7.2*	花崗岩	1862	
V-6	20	H-3	床面	L0	浮き板石製品	5.2×4.6×4.05	16.90	板石	1856	
	7		埋土下層	M1	組み付ナイフ	5.1×1.6×0.8	4.6	黒曜石	1177	
	8		埋土上層	M5	石フレイク	3.0×2.4×0.9	4.2	黒曜石	294	
V-7	9	H-4	埋土中層	M5	細長割片	7.2×2.1×1.08	10.8	黒曜石	640	
	10		砂下層	M5	すり石	19.5×7.7×4.1	0.42*	粘板岩	1873	
	11		埋土中層	M5	たたき石	6.5×9.0×7.2	0.42*	新岩	1867	
V-8	12	H-4	埋土下層	M5	板石片	5.2×4.5×1.9	0.94*	安山岩	1872	
	13		床下	M5	石石	25.8×18.2×11.0	7.6*	花崗岩	1877	
	5		埋土上層	E5	石塊	1.2×1.0×0.3	0.3	黒曜石	1119	
V-9	6	H-5	埋土中層	E5	石塊	1.15×1.1×0.23	0.3	黒曜石	1118(3)	
	7		埋土上層	E5	石塊	1.6×1.4×0.3	0.5	黒曜石	674	
	8		埋土中層	M5	石フレイク	2.7×3.1×1.0	6.5	黒曜石	1099	
	9		埋土中層	E5	石フレイク	6.15×1.6×1.1	6.8	黒曜石	1364	
	10		埋土上層	E5	割器	6.9×3.8×1.2	27.0	黒曜石	1102	
	11		床面	E5	細長割片	7.8×2.65×1.14	14.6	黒曜石	1107	
	12		砂埋土	E5	たたき石片	6.7×6.9×3.9	0.19*	17°砂岩	1886	
	13		埋土中層	E5	へうき割片	5.5×2.7×1.3	16.0	砂岩	1884	
	3		床下	F3	石塊	3.48×1.82×0.2	1.2	黒曜石	1186	
	4		床埋土	F5	組み付ナイフ	5.5×2.8×0.7	9.0	黒曜石	1152	
	5		床埋土	F4	石フレイク	4.2×2.2×1.0	8.2	黒曜石	1154	
	6		床下	F4	割器	6.1×7.1×1.6	53.0	黒曜石	1148	
	7		床下	F5	石片	7.3×2.55×1.2	14.1	黒曜石	664	
V-9	8	H-6	トレンチ上層	F4	石片	6.2×3.1×1.2	17.6	ロジン岩	2341	
	9		埋土下層	F5	すり石	9.8×10.1×5.6	0.69*	花崗岩	1876	
	10		床	F5	たたき石	9.3×9.6×5.8	0.79*	緑色岩	1883	
	11		埋土下層	F5	石石	24.7×17.4×9.8	5.13*	花崗岩	1879	
	2		埋土上層	M1	石塊	1.9×1.3×0.4	0.6	黒曜石	680	
	3		埋土下層	M1	石塊	2.4×0.9×0.3	0.4	黒曜石	707	
	4		埋土下層	M1	石塊	5.31×1.82×0.75	5.2	黒曜石	703	
	5		砂埋土	M5	石フレイク	5.2×2.3×0.7	7.4	黒曜石	1718	
	6		床下	M1	割器	6.0×2.4×1.0	8.9	黒曜石	1378	
	7		埋土下層	M1	細長割片	6.1×1.46×0.8	3.5	黒曜石	706	
	8		埋土中層	M1	たたき石	11.4×7.1×3.6	0.7*	花崗岩	1889	
V-10	9	H-7	床面	M1	板石片	3.9×3.9×2.35	0.02*	砂岩	1885	
	10		埋土下層	M1	板石	9.4×9.4×4.0	0.43*	砂岩	1899	
	11		砂	M1	石石片	15.6×9.1×7.7	1.06*	花崗岩	1898	
	3		床面	M6	石塊	3.87×0.96×0.33	1.1	黒曜石	852	
	4		埋土下層	M6	石塊	1.1×0.9×0.2	0.2	黒曜石	735	
	5		埋土中層	M6	石塊	5.9×3.1×0.9	12.6	黒曜石	864	
	6		埋土下層	M6	板石	5.4×3.5×0.6	7.6	黒曜石	749	
	7		床面	M6	石フレイク	3.6×2.0×1.0	6.0	黒曜石	1404	
	8		埋土下層	M6	板石	5.7×4.3×1.3	19.3	黒曜石	748	
	9		埋土下層	M6	細長割片	8.1×2.6×1.2	16.3	黒曜石	727	
	10		床面	M6	石片	14.5×5.2×3.4	306.8	緑色岩	1925	アオトナ
V-11	11	H-8	埋土中層	M6	たたき石	11.8×6.1×3.2	300.0	新岩	1917	
	12		埋土上層	M6	すり石	10.5×7.3×4.62	420.0	花崗岩	1913	
	13		床面	M6	石石	20.4×10.1×7.0	2330	粘板岩	1921	
	14		床面	M6	板石	23.0×13.0×6.55	2640	花崗岩	1927	
	15		床面	M6	角形割片	2.4×2.0×2.05	17.63	砂岩	1922	
	1		埋土中層	M6	割片	8.4×4.5×1.5	48.9	黒曜石	1710	
	2		埋土上層	M6	たたき石	10.1×7.5×3.1	8.71*	陶磁器	419	
	3		埋土上層	K5	石塊	1.5×1.2×0.3	0.4	黒曜石	1167	
	1		埋土中層	K5	細長割片	7.1×2.45×1.2	12.6	黒曜石	651	
	2		埋土上層	C4	石片	12.8×2.36×0.74	(5.1)	黒曜石	850	
	3		埋土上層	C4	組み付ナイフ片	4.5×2.3×1.2	10.8	黒曜石	851	
V-11	1	H-11	埋土中層	C4	割石	16.1×4.8×6.3	0.9*	粘板岩	1933	
	2		埋土上層	L6	細長割片	5.0×2.6×1.2	10.8	黒曜石	771	
	3		埋土上層	L6	割石	12.8×6.9×4.6	0.60*	砂岩	1935	
	1		埋土中層	N1	細長割片	6.15×2.55×1.3	10.2	黒曜石	776	板石面

国	番号	遺構名	層位	調査区	分類	長さ×幅×高さ	重量(t) : ※ (kg)	材質	取り上げ遺物 番号	備考
V-12	1	B-16	地上下層	G4	石坪	11.0×4.1×1.9	105.7	緑色花崗	440	アオトラ
	2		地上下層	G4	石坪	8.35×3.1×1.3	47.9	板状岩	445	
	3		地上下層	G4	石坪	11.7×4.6×2.0	134.8	緑色花崗	439	アオトラ
	4		地上下層	G4	石坪	8.75×3.6×1.2	65.9	板状岩	444	
	5		地上下層	G4	石坪	10.2×4.9×1.5	96.1	板状岩	441	
	6		地上下層	G4	石坪	8.14×3.9×1.4	60.7	ロジシ岩	446	
	7		地上下層	G4	石坪	9.1×4.2×1.8	87.3	ロジシ岩	443	
	8		地上下層	G4	石坪	8.0×4.4×1.4	76.2	花崗	442	
	9		地上下層	G4	石坪	5.7×3.4×1.15	33.6	緑色花崗	448	アオトラ
	10		地上下層	G4	石坪	7.7×2.6×0.9	22.0	板状岩	447	
	11		地上下層	G4	石坪	5.65×2.2×0.84	15.5	緑色花崗	449	アオトラ
	12		地上下層	G4	円盤状すり石	18.40×5.30×0.6	24.1	砂岩	846	
V-13	13	B-16	床面	G4	磨製石器	6.0×3.0×0.6	12.6	板状岩	450	
	14		地上下層	G4	磨製石器	5.2×3.0×0.6	11.3	板状岩	844	
	15		床面	G4	磨製石器	4.75×2.5×0.6	6.7	板状岩	451	
	16		地上下層	G4	砂岩	16.6×13.5×7.4	1.48*	板状岩	1986	
	17		地上下層	G4	勾玉状小礫	2.2×1.45×0.86	2.9	花崗	845	
	1	P-1	地上中層	G1	石片	16.1×2.7×1.31	19.16	緑色花崗	1941	
	2		地上中層	G1	すり石	6.85×3.9×0.9	39.32	ホルンフェルス	1943	
V-14	3		地上中層	G1	すり石	7.6×14.2×4.65	6.40	砂岩	1942	
	4		地上中層	G1	砥石片	11.6×7.05×2.3	300.0	砂岩	1945	
V-15	5	P-1	地上下層	G1	台石	37.3×24.2×11.9	13.0*	花崗	1937	
	6		地上中層	G1	台石	28.4×15.6×9.6	5.4*	板状岩	1938	
	7		地上中層	G1	台石	25.9×16.5×10.4	5.6*	花崗	1954	
V-14	8	P-1	地上中層	G1	圓石	11.2×4.85×3.25	240.0	砂岩	1946	
	9		地上上層	G1	有孔礫	6.45×7.3×2.0	112.6	砂岩	138	
V-15	1	P-2	地上上層	N4	たたき石	13.0×9.7×8.4	1.26*	花崗	1979	
	1		地上下層	K1	三角形礫	3.2×0.05×4.3	60.0	板状岩	1978	
	1	P-12	地上上層	36	すり石片	15.8×5.1×2.51	74.19	花崗	1982	
	2		地上下層	16	台石片	11.65×10.7×3.5	540.0	花崗	1970	
	1	P-13	地上下層	11	たたき石	4.0×4.8×4.6	100.0	板状岩	1976	
	1		地上上層	E4	石礫	2.9×1.3×0.5	1.7	花崗	847	
	2	P-14	地上上層	E4	縦長割片	8.4×2.8×1.4	11.4	花崗	1223	割石
	3		地上上層	E4	Rフレイク	5.0×3.1×1.3	15.2	花崗	1225	
	4	B-16	地上下層	E4	たたき石片	8.4×5.9×2.8	180.0	板状岩	1989	
	4		磨盤	R2	石礫	2.35×1.41×0.35	0.9	花崗	859	
	5		V層上層	R2	石礫	1.4×1.1×0.3	0.3	花崗	1496	
	6		V層上層	R2	石礫	2.0×1.4×0.4	0.7	花崗	1483	
	7		V層上層	A1	石礫	1.6×1.1×0.2	0.3	花崗	1477	
	8		V層上層	R2	石礫	2.6×1.2×0.4	0.9	花崗	1547	
	9		V層上層	A1	石礫	12.71×(1.37)×0.35	1.0	花崗	66	
	10		V層上層	C1	石礫	12.41×1.31×0.41	11.69	花崗	357	
V-16	11	B-16	磨盤	R3	石礫片	15.40×2.8×0.88	146.1	花崗	1485	
	12		磨盤	R2	石礫片	15.31×2.7×(1.24)	117.4	花崗	1484	
	13		磨盤	R1	石礫	16.50×3.4×1.14	119.0	花崗	1638	
	14		磨盤	C2	石礫	5.25×1.57×0.85	5.4	花崗	862	
	15		磨盤	R2	石礫片	4.35×1.6×0.69	4.5	花崗	1543	
	16		磨盤	R2	石礫	15.71×3.64×1.15	14.9	花崗	860	
	17		V層上層	P2	石礫	2.5×2.1×0.7	2.4	花崗	118	
	18		磨盤	A1	石礫	4.55×3.0×0.5	3.7	花崗	1478	
	19		V層上層	B1	焼み付ナイフ	7.1×2.0×0.8	10.8	花崗	102	
	20		磨盤	R2	焼み付ナイフ片	2.7×3.0×1.1	6.4	花崗	1493②	
	21		磨盤	R2	焼み付ナイフ片	1.9×1.7×0.5	1.2	花崗	1502	
	22		V層上層	P2	焼み付ナイフ片	13.81×(3.1)×(1.08)	112.69	花崗	117	
V-17	23	B-16	磨盤	R2	焼み付ナイフ	5.7×3.6×1.2	18.5	花崗	1493①	
	24		磨盤	R2	焼み付ナイフ片	4.2×2.6×0.7	4.2	花崗	1501	
	25		磨盤	R2	焼み付ナイフ	2.7×2.1×0.8	4.4	花崗	1493③	
	26		磨盤	R2	Rフレイク	4.8×3.3×1.3	21.3	花崗	1486	
	27		磨盤	R2	磨盤	4.7×2.2×0.9	6.3	花崗	1504	
	28		磨盤	R2	磨盤	4.7×4.6×1.2	13.6	花崗	1503	
	29		V層上層	B1	縦長割片	3.92×2.5×0.9	7.4	花崗	104	
	30		V層上層	D5	磨盤	4.1×3.9×1.1	14.9	花崗	1530	
	31		V層上層	D5	すり石	8.6×14.7×6.5	1,605*	花崗	2000	
	32		磨盤	A1	すり石	7.7×13.4×7.1	990	砂岩	406	
	33		V層上層	F1	円盤状すり石片	8.2×9.1×2.1	200.5	砂岩	308	
V-16	34	B-16	磨盤	G1	石礫	9.0×7.3×2.3	0.24*	花崗	412	
	35		地上下層	G1	砥石	25.2×11.5×9.1	3,67*	花崗	1983	
V-17	36	B-16	磨盤	A1	磨盤	6.4×6.2×5.0	0.30*	花崗	411	

図	番号	遺構名	部位	調査区	分類	長さ×幅×高さ	重量(g)：※(kg)	材質	取り上げ遺物番号	備考
V-17	1	包次層	V層上面	B3	洞石	11.6×5.83×4.90	486.9	砂岩	112	
	2		トレンチ中層	J2	縦長割片	1.3×0.5×0.2	0.1	黒曜石	1622	
	3		トレンチ中層	J3	縦長割片	1.0×0.6×0.2	0.1	黒曜石	759	
	4		I層	表板	石壁	12.45×1.3×0.42	1.0	黒曜石	23	
	5		V層上面	C5	石壁	2.03×1.2×0.4	0.6	黒曜石	427	
	6		V層上面	16	石壁	12.45×(1.34)×0.21	0.63	黒曜石	943	
	7		V層上面	D6	石壁	12.13×1.45×0.31	0.7	黒曜石	177	
	8		I層	表板	石壁	2.45×1.57×0.35	1.1	黒曜石	22	
	9		V層上面	K3	石壁	1.8×1.4×0.26	0.4	黒曜石	854	
	10		V層上面	K5	石壁	1.75×1.5×0.3	0.4	黒曜石	129	
	11		トレンチ上層	N3	石壁	1.5×1.42×0.22	0.3	黒曜石	853	
	12		V層上面	C5	石壁	12.36×1.8×0.4	1.4	黒曜石	99	
	13		I層	表板	石壁	2.3×1.27×0.3	0.7	黒曜石	1	
	14		V層上面	D6	石壁	2.22×0.95×0.25	0.6	黒曜石	869	
	15		I層	表板	石壁	2.95×1.45×0.26	1.0	黒曜石	858	
	16		I層	表板	石壁	2.82×1.05×0.45	1.1	黒曜石	72	
	17		I層	表板	石壁	2.7×1.1×0.35	0.9	黒曜石	74	
	18		V層上面	J1	石壁	2.6×0.8×0.3	0.5	黒曜石	1622	
	19		I層	表板	石壁	2.75×9.1×0.27	10.0	黒曜石	856	
	20		V層上面	O6	石壁	1.95×0.83×0.23	0.4	黒曜石	848	
	21		V層上面	M2	石壁	2.04×0.87×0.26	0.4	黒曜石	857	
	22		トレンチ上層	N3	石壁	(1.7)×1.1×0.26	0.3	黒曜石	853	
	23		I層	表板	石壁	(3.12)×1.73×0.54	1.6	黒曜石	60	
	24		I層	表板	石壁片	(4.33)×2.3×0.7	(4.4)	黒曜石	1747	
	25		I層	表板	石壁片	(5.12)×3.26×1.01	(12.1)	黒曜石	1767	
	26		V層上面	F3	石壁片	(3.15)×3.04×0.8	(3.5)	黒曜石	1636	
	27		I層	表板	石壁片	(3.1×2.8×0.78)	(5.0)	黒曜石	1757	
	28		I層	表板	石壁片	(2.85)×2.5×1.18)	(7.9)	黒曜石	4	
	29		I層	表板	石壁	4.6×1.1×1.0	4.2	黒曜石	1768	
	30		I層	表板	石壁	4.78×3.46×1.1	10.2	黒曜石	1748	
V-18	31	包次層	V層上面	L4	石壁	4.82×3.95×0.7	7.2	黒曜石	861	
	32		V層上面	N3	石壁	4.34×2.47×0.9	4.2	黒曜石	863	
	33		I層	表板	横み付ナイフ	5.85×3.08×0.92	9.2	黒曜石	49	
	34		V層上面	J3	横み付ナイフ	8.0×2.2×1.6	15.5	黒曜石	761	
	35		I層	表板	横み付ナイフ片	(4.7)×2.7×0.95	(12.6)	黒曜石	20	
	36		V層上面	L6	割岩	4.3×2.3×1.1	7.9	黒曜石	38	
	37		V層上面	D6	割岩	3.7×2.3×0.9	4.4	黒曜石	178	
	38		I層	表板	割岩	3.52×4.56×1.55	39.6	黒曜石	27	
	39		V層上面	I2	割岩	4.4×4.3×1.3	20.5	黒曜石	198	
	40		I層	表板	ナイフ型	4.9×2.54×0.75	7.7	黒曜石	6	
	41		I層	表板	ナイフ型	3.7×2.4×0.9	8.1	黒曜石	71	
	42		V層上面	G1	割岩	5.75×1.9×1.0	6.1	黒曜石	82	
V-19	43	包次層	V層上面	J3	縦長割片	5.6×2.35×1.05	6.4	黒曜石	124	
	44		V層上面	M3	石斧片	(4.0)×4.2×1.90	(50.6)	緑色泥岩	134	アオトラ
	45		V層上面	C3	石斧片	8.5×4.3×0.8	29.4	ロジン岩	211	
	46		I層	表板	石斧片成立品	13.8×5.1×2.3	228.2	安山岩	28	
	47		V層上面	C5	たたき石	14.6×6.2×3.6	9.45*	花崗岩	2044	
	48		V層上面	J6	たたき石	14.7×5.8×3.3	9.52*	花崗岩	2037	
	49		I層	表板	たたき石	6.7×14.5×6.7	880	閃緑岩	2059	
	50		I層	表板	すり岩	11.7×19.8×6.6	1.96*	花崗岩	2062	
	51		I層	表板	すり岩	10.9×15.4×5.2	1.06*	砂岩	2061	
	52		I層	表板	すり岩	10.4×15.8×5.8	0.92*	砂岩	401	
	53		I層	表板	すり岩	9.7×15.6×5.1	1.03*	砂岩	2060	
V-20	54	包次層	トレンチ上層	E1	鍍金土製品	3.12×2.83×2.63	21.4	焼成粘土	2240	
	55		V層上面	K5	鍍金土	3.7×4.1×3.6	0.091*	花崗岩	368	
	56		V層上面	F6	鍍金土	2.7×3.0×2.2	0.03*	閃緑岩	162	
	57		V層上面	M3	三角形破片	(5.7)×(5.5)×(3.0)	0.11*	砂岩	1681	
	58		I層	表板	三角形破片	6.45×8.0×3.6	241.6	花崗岩	24	
	59		層上平層	J4	有孔層	16.5×9.1×3.5	0.69*	砂岩	389	
	60		V層上面	E3	有孔層	9.5×8.4×3.2	0.29*	砂岩	2065	
V-20	61	包次層	I層	表板	有孔層	8.0×7.8×2.1	0.18*	砂岩	2066	
	62		I層	表板	有孔層	5.4×7.5×4.6	0.15*	砂岩	2065	
	63		I層	表板	有孔層	7.8×4.7×1.3	0.07*	砂岩	2067	
	64		V層上面	F6	有孔層	3.5×3.2×1.2	17.7	砂岩	2027	

表V-3 遺構出土遺物点数一覧

[illegible]

表V-4 沢跡・包含層の出土遺物一覧 (B調査埋め戻し・トレンチ・その他)

[illegible]

表V-5 途別7遺跡 出土遺物点数一覧

出土遺物 分類名	土器						石器					
	I 群?	I 群a類	I 群b類	II 群a類	III 群 b 類	不明	石鏃 石槍	石鏟	つまみ付 きナイフ	Rフレイク	Rフレイク 片	掘棒
遺構	0	5318	821	1	0	0	24	12	3	43	4	2
没遺構	0	15	17	0	0	0	5	1	1	3	1	0
沢跡	0	1	33	7	1	0	12	7	7	6	3	0
包含層（表採）	2	37	47	1	0	12	27	9	6	10	0	0
B調査戻し	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
トレンチ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	5371	919	9	1	12	68	29	17	62	8	2

出土遺物 分類名	石器											
	削器 ナイフ	短長剣片	フレイク チップ	石核片	磨製石斧	磨製刀器	たたき石	すり石	扁平打製 石器	凹石	石鏃	礫石
遺構	35	384	4265	203	14	4	38	38	0	5	0	70
没遺構	2	6	109	11	0	0	12	12	0	0	0	5
沢跡	10	14	981	69	2	1	2	12	0	0	0	13
包含層（表採）	33	27	2086	59	4	0	467	23	1	1	1	37
B調査戻し	0	1	19	0	0	0	1	0	0	0	0	0
トレンチ	0	0	0	0	0	0	8	7	2	0	0	0
合計	80	432	7460	342	20	5	528	92	3	6	1	125

出土遺物 分類名	土・石製品									合計
	台石	石鏃	棒状小石 (垂魚)	土・石製 品	原石	浮子	顔料	炭化材	礫・小礫 砂利	
遺構	129	0	0	11	11	4	4	255	1933	2 13633
没遺構	10	0	0	1	2	0	0	16	184	0 413
沢跡	11	1	0	5	1	0	0	7	530	0 1736
包含層（表採）	10	0	4	6	4	0	3	23	1168	0 4108
B調査戻し	0	0	0	2	0	0	0	0	20	0 43
トレンチ	2	1	0	1	0	0	0	0	250	0 272
合計	162	2	4	26	18	4	7	301	4085	2 20205

Ⅵ章 自然科学的分析

1. 途別7遺跡の放射性炭素年代測定

株式会社パレオ・ラボ

1. はじめに

途別7遺跡より採取された試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

2. 試料と方法

試料は、F-1の焼土中から採取された試料No.Tobe 7-1（PLD-54445）、H-2の炉覆土から採取された試料No.Tobe 7-2（PLD-54446）、H-3の炉覆土から採取された試料No.Tobe 7-3（PLD-54447）、H-4の炉覆土から採取された試料No.Tobe 7-4（PLD-54448）、H-5の炉覆土から採取された試料No.Tobe 7-5（PLD-54449）、H-8の覆土下層から採取された試料No.Tobe 7-6（PLD-54450）の、計6点である。いずれも最終形成年輪を欠く、部位不明の炭化材である。

測定試料の情報、調製データは表1のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

表1 測定試料および処理

測定番号	道路データ	試料データ	前処理
PLD-54445	試料No. Tobe7-1 調査区：F5 遺構：F-1 層位：焼土中	種類：炭化材 試料の性状：不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-54446	試料No. Tobe7-2 調査区：J2 遺構：H-2 層位：炉覆土	種類：炭化材 試料の性状：不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-54447	試料No. Tobe7-3 調査区：L1 遺構：H-3 層位：炉覆土	種類：炭化材 試料の性状：不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-54448	試料No. Tobe7-4 調査区：M5 遺構：H-4 層位：炉覆土	種類：炭化材 試料の性状：不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-54449	試料No. Tobe7-5 調査区：E5 遺構：H-5 層位：炉覆土	種類：炭化材 試料の性状：不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-54450	試料No. Tobe7-6 調査区：J6 遺構：H-8 層位：覆土下層	種類：炭化材 試料の性状：不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）

3. 結果

表2に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代を、図1に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の実験誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.27% であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 $\pm$ 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.4 (較正曲線データ: IntCal20) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.27% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.45% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

4. 考察

以下、 2σ 暦年代範囲 (確率 95.45%) に着目して結果を整理する。

F-1 の試料 No.Tobe 7-1 (PLD-54445) は、12113-12018 cal BC (38.22%) および 12005-11860 cal BC (57.23%) の暦年代を示した。

H-2 の試料 No.Tobe 7-2 (PLD-54446) は、7303-7296 cal BC (0.67%)、7246-7233 cal BC (1.53%)、7184-7047 cal BC (93.25%) の暦年代を示した。

H-3 の試料 No.Tobe 7-3 (PLD-54447) は、7449-7434 cal BC (1.75%)、7352-7137 cal BC (88.38%)、7106-7081 cal BC (5.32%) の暦年代を示した。

H-4 の試料 No.Tobe 7-4 (PLD-54448) は、7318-7224 cal BC (25.94%) および 7195-7069 cal BC (69.51%) の暦年代を示した。

H-5 の試料 No.Tobe 7-5 (PLD-54449) は、7329-7128 cal BC (80.90%) および 7117-7077 cal BC (14.55%) の暦年代を示した。

H-8 の試料 No.Tobe 7-6 (PLD-54450) は、7340-7130 cal BC (85.78%) および 7113-7078 cal BC (9.67%) の暦年代を示した。

縄文時代の暦年代について、小林 (2017) および Omoto et al. (2010) を参照すると、試料 No.Tobe 7-1 (PLD-54445) は縄文時代草創期に、試料 No.Tobe 7-2 (PLD-54446) ~ No.Tobe 7-6 (PLD-54450) は縄文時代早期中葉に相当する。

なお、木材の場合、最終形成年輪を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、最終形成年輪から内側であるほど古い年代が得られる (古木効果)。今回の試料は、いずれも最終形成年輪を欠く部位不明の炭化材であり、測定結果は古木効果の影響を受けている可能性がある。その場合、試料の木が実際に枯死もしくは伐採された年代は、測定結果よりもやや新しい年

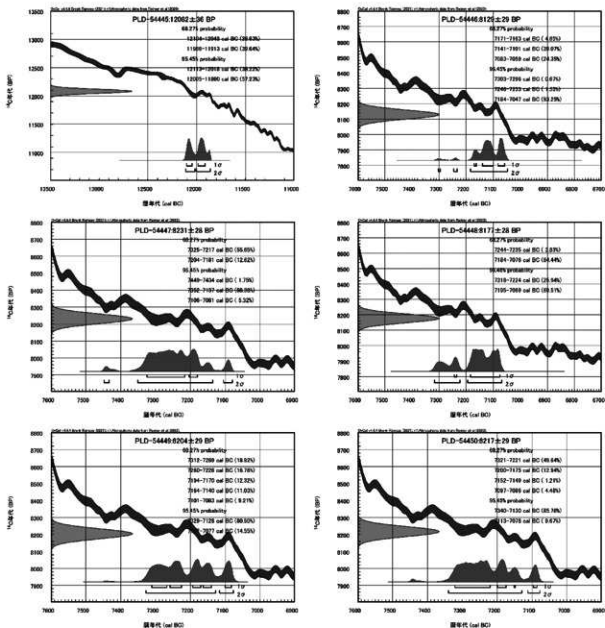
代であると考えられる。

引用・参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51 (1), 337-360.
- 小林謙一 (2017) 縄紋時代の実年代. 263p, 同成社.
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の¹⁴C年代編集委員会編『日本先史時代の¹⁴C年代』: 3-20, 日本第四紀学会.
- Omoto, K., Takeishi, K., Nishida, S. and Fukui, J. (2010) Calibrated 14C Ages of Jomon Sites, NE Japan, and Their Significance. Radiocarbon, 52 (2), 534-548.
- Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). Radiocarbon, 62 (4), 725-757. doi:10.1017/RDC.2020.41. <https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41> (cited 12 August 2020)

表2 放射性炭素年代測定および暦年校正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年校正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	¹⁴ C年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	¹⁴ C年代を暦年時代に校正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-54445 試料No. Tohe7-1	-28.23 ± 0.16	12082 ± 36	12080 ± 35	12104-12048 cal BC (28.63%) 11986-11913 cal BC (39.64%)	12113-12018 cal BC (38.22%) 12005-11860 cal BC (57.23%)
PLD-54446 試料No. Tohe7-2	-28.66 ± 0.20	8129 ± 29	8130 ± 30	7171-7163 cal BC (4.85%) 7141-7101 cal BC (39.07%) 7083-7059 cal BC (24.35%)	7303-7296 cal BC (0.67%) 7246-7233 cal BC (1.53%) 7185-7047 cal BC (93.25%)
PLD-54447 試料No. Tohe7-3	-26.41 ± 0.16	8231 ± 28	8230 ± 30	7325-7217 cal BC (55.65%) 7204-7181 cal BC (12.62%)	7449-7434 cal BC (1.75%) 7352-7137 cal BC (88.38%)
PLD-54448 試料No. Tohe7-4	-28.30 ± 0.16	8177 ± 28	8175 ± 30	7244-7235 cal BC (3.83%) 7184-7076 cal BC (64.44%)	7318-7224 cal BC (25.94%) 7195-7069 cal BC (69.51%)
PLD-54449 試料No. Tohe7-5	-27.34 ± 0.16	8204 ± 29	8205 ± 30	7312-7269 cal BC (18.92%) 7260-7226 cal BC (16.78%) 7194-7170 cal BC (12.32%) 7164-7140 cal BC (11.03%) 7101-7083 cal BC (9.21%)	7329-7128 cal BC (80.90%) 7117-7077 cal BC (14.55%)
PLD-54450 試料No. Tohe7-6	-25.98 ± 0.21	8217 ± 29	8215 ± 30	7321-7221 cal BC (49.64%) 7200-7175 cal BC (12.94%) 7152-7149 cal BC (1.21%) 7097-7086 cal BC (4.48%)	7340-7130 cal BC (85.78%) 7113-7078 cal BC (9.67%)



図VI-1 暦年較正結果

北東アジアの石刃鐵石器群における体系的黒曜石研究の適用：現状と課題

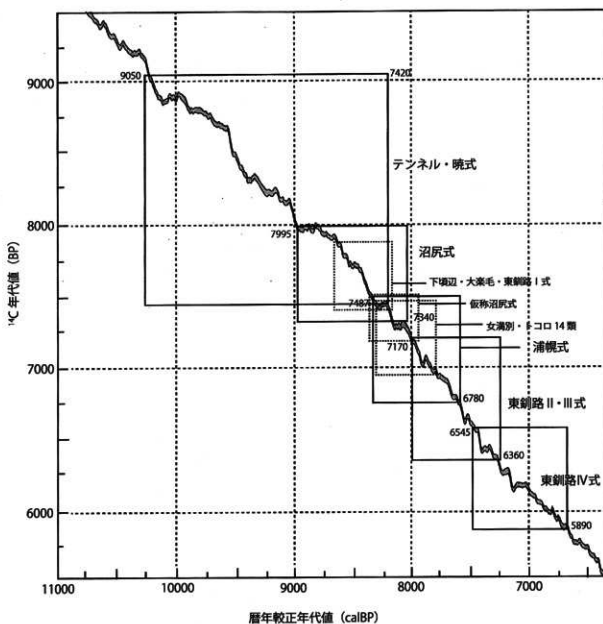
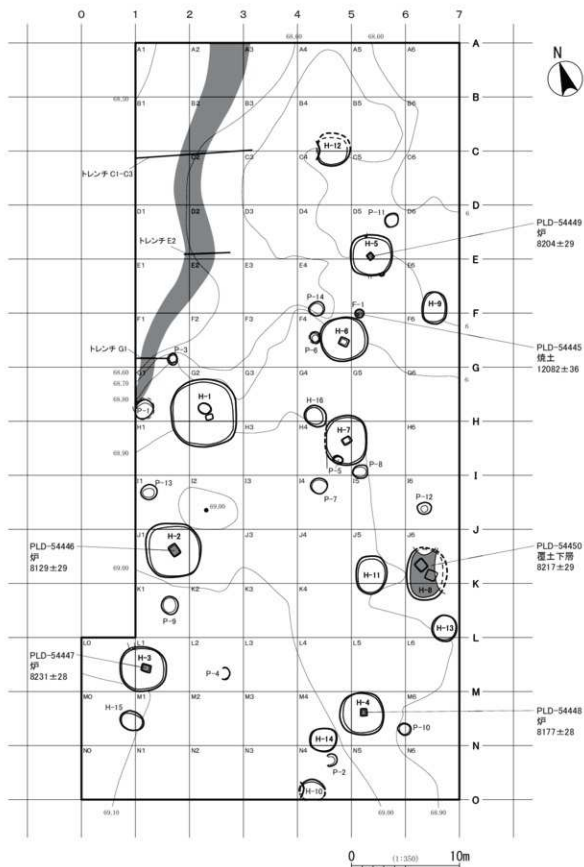


図3 北海道東部地域（縄文時代早期）における土器型式の暦年較正年代値

図Ⅵ-2（國木田 2014 より引用）



図VI-3 年代測定サンプル採取位置

Ⅶ章 小括

本遺跡の発掘調査における知見や、問題点は次の通りである。

1. 遺構について

遺跡の立地は、なだらかで緩い傾斜面を選地して集落が造られていた。その点で、筆者が以前調査した遺跡部の千歳市イカベツ2遺跡（北埋調報 348）の集落と同等の立地条件を選択していると思えた。堅穴住居跡の平面形は隅丸方形状。小型堅穴遺構は楕円形を呈するものが多かった。

堅穴の隅丸方形の輪郭に対し、軸を角と角を結ぶ最大長軸方向へずらす形で隅丸方形の地床炉が検出されており、屋根を支える支柱列に対して（図Ⅶ-1・2）、効率よく人が居住するため、炉の角度がずらされていると推測される。

床面はH-1等で構築面の砂利層と生活面（黒色土が薄く堆積する面）の間に、粘土層と砂層が交互に重なる状況を確認することが出来た。また、H-1やH-8の様に最初の炉が廃棄され、場所を移して炉が再構築されていることから、複数回の建て替えが行われたと考えられる。単独の炉をもつ堅穴の場合も、同じ場所を基礎に繰り返し建て直しが行われた可能性がある。

堅穴壁面から床面にかけて堆積したロームと砂の混合土については、その緩やかな傾斜の堆積から、テラス状に作られた可能性が考えられた。これはH-1～8の各堅穴住居跡で確認され、H-9～16までの小型堅穴では確認されなかった。この堆積上には、柱穴底部と思われる痕跡が見られた。また、生活面と考えられる面は、ベルト土層下位の層厚の薄い煤化した黒色土を床判断の基準とした。

同時期のイカベツ2遺跡のH-10・12（図Ⅶ-6）でも同様の堅穴構造がみられ、H-12は堅穴構築段階でテラス状の段を作り、H-10ではトレンチ下位に床面が確認でき、掘り下げている段階で石礫が出土し、本遺跡と同様の後付けのテラス構造と考えた。

堅穴調査では、床面がなかなか確定に至らず、粘土を剥がすたびに土器や石器が出土し、最終的に地山となるゴツゴツとした砂利層面からもフレイクが出土した。出土状況からは堅穴構築時に石器を散布している可能性も考えられた。

2. 土器について

本遺跡で出土したⅠ群a類土器は、テンネル・晩式土器群に含まれる（図Ⅶ-5）。この土器型式は、十勝地域では「晩式土器」として呼称されるが、型式内容は釧路地方の「テンネル式土器」と共通するものであることが研究者の間では早くから認識されており、西 幸隆により両型式を併記することが提唱され、「テンネル・晩式土器」（1997）と総称された。しかし、ここでは文字数の制限と、十勝地域の遺跡であることから名称を晩式土器と略したい。この型式の分布域は、破片が出土した北限の遺跡としてサハリン（樺太）のアドブトゥ2遺跡、南限は函館市にある函館空港遺跡群の中野A遺跡があり、土器の流通から当時の人々の移動や交流が推測される。

本遺跡出土の土器群は無文、または径の小さい円形刺突文（竹管状工具による。朱貫通）、沈線文（格子目状文様）、縦位の条痕文の構成となり、晩式土器群のうちでもH-2・3・8は北沢実氏の分類するⅠ類（古期段階第Ⅰ群：北沢2009）に属するものと考えられる。H-4・5のものは底部が外方に張り出す古期段階の第Ⅱ群に相当すると考えられる（図Ⅶ-3）。しかし、H-2に外方に張り出す底部片、H-4・5・6に窄まる底部も含まれており、両者が混雑する移行期と捉えるか、堅穴廃棄後に投げ込まれたものか検討が必要である。

復元した個体は、上面が隅丸方形状や楕円形を呈するもので構成されており、長楕円形の底部は千歳市キウス5遺跡（北埋調報 125）出土の個体に類する。また、口縁部が方形に近いものではイカベツ2遺跡の個体がある。この個体は肩部が膨らみ、口縁が内湾気味になる。本遺跡は膨らまず底部に向かって窄まり、器形の相違がある。文様では、イカベツ2遺跡では口唇部文様の円孔文が器内面に瘤状に隆起するほどに強く押圧されているが、本遺跡でのH-5-1・H-7-1は浅い刺突に抑えられている。格子目状の沈線文もイカベツ2遺跡は深く明瞭であるのに対し、H-4-3の沈線は浅く、文様の格子目も湾曲する線があり大雑把になる。

十勝の晩式の形状は、古相段階に口縁部に上面観で隅丸方形状がみられ、底部内面には指圧痕の痕跡が残るものが目立ち、中相・新相では口縁部が楕円形、または円形状に変化すると北沢実氏より最新の知見をご教示頂いた。津軽海峡周辺に分布する貝殻沈線文尖底土器群が、中野A式の段階に上面観が円形から方形の器形へと変遷することについても、北からの影響も考えられるのではないかと。

3. 石器について

剥片石器は削器など縦長剥片を素材とするものが多く見られた。

石鏃は遺構ごとに違う形態のものが出土したことから、その形態に時間差が存在する可能性が考えられた。そこで、日高町ケノマイ2遺跡で川内谷修氏により考察された石鏃の分類（日高町 2015）1型abc類型、2型と3型に比較した。本遺跡出土の石鏃はケノマイ2遺跡に近似するが細部で異なる事例も見られた。H-7・8の床面出土の砲弾形長胴・五角形を呈する石鏃や、H-3・7・5出土の二等辺三角形・正三角形を呈するもの、胴部に振れ（薄片の稜線が湾曲する）がみられるものは、新しく分類を加えて類型化を試みた（図VI-4）。0型a類としたH-20出土の胴長の石鏃については他遺跡に見られない事例と思われる。

また、三角形を呈する0型b類は、図VI-3のH-5・8の覆土から出土した石槍に類する。I型d~gは三角形平基の石鏃のうちから細分類したもので、d類とe類は十勝の晩式に伴う三角形平基の内湾型の基本的な形状から、側縁片側が外方に湾曲し反対側が直線的で、基部の片側が鋭角に突出する形状のものが本遺跡ではみられたので細分した。f・g類は本遺跡では樽前dテフラの上層から出土する傾向にある。剥片に縁辺加工を施す省力化がみられ、石刃鏃石器群に繋がる要素がみられるように思う。

H-8出土の石槍は樽前dテフラより下層で出土し晩式期の期間に使用されたものと考えられる。沢跡出土の石槍は基部が細くなり、両端部が外方に張り出さない点で差異がある。途別周辺で表採された佐々木コレクション中に同形状の「尖頭器」がある。

磨製石斧は、H-16から多様な石材の磨製石斧11本が出土したほか、擦切り手法の痕跡の残る石斧もみられた。釧路町東陽1遺跡（北埋調報 230）で擦切り手法の伝播について考察されており、釧路町幣舞2遺跡に続いて晩式土器に伴う事例になる。

礫石器では、たたき石に遺構間で共通性がみられるものがあり、円錐形と棒状の自然礫、または三角形に加工した礫の底面を打面とするたたき石が、晩式期の石器組成に加わるのではないかと考えている。

石製品では、有孔礫が中茶路式期のP-1の覆土中でも出土し、同町の札内N遺跡では有孔石（本文ママ）が土坑に並べられて出土しており、持ち込まれた有意の礫として考えている。H-16で石斧群に伴った勾玉状小石も有意のものとした。

石材についてはH-2ではチャート製のフレイクが貼床の下から出土し、H-16とH-20では緑色泥

岩（通称アオトラ石）製の石斧が出土する。このことから、日高山脈に沿って分布する神居古潭変成帯の何処からか原石、または完成品を入手していたと推察される。

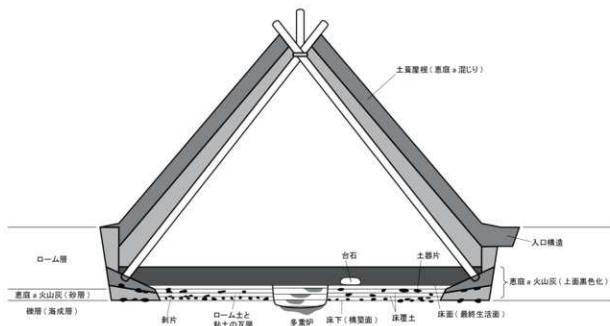
4. 年代値について

炉跡のあった各住居跡にて実施した。8200年前後の数値が揃い、暦年校正した calBP の値でみると 9200calBP 前後とみられ（図Ⅵ-3）、これらは住居の廃絶の年代値と考えられるので、堅穴が構築されてからの営住期間も考慮する必要がある。

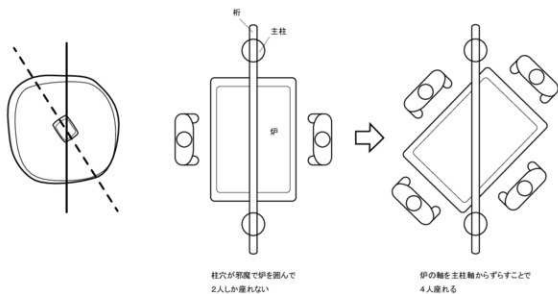
また、分析報文中に「いずれも最終形成年輪を欠く部位不明の炭化材であり、測定年代には古木効果の影響を受けている可能性がある、（中略）測定結果よりもやや新しい年代であると考えられる」ともあり、炉内で燃焼された木片の結果は総じて新しい傾向にある数値と考えられ、晩式土器古相の正確な年代値を得ることは難しかった。

一方で、H-6 の壁際でローム層中から検出された焼土は、1万2千年前の値が得られた。この焼土は人為的なものか自然発生的なものかは、現地で判断がつかなかった。遺構周辺の遺物、さらに範囲を広げて本遺跡で出土した遺物の中に帯広市大正3遺跡の草創期石器群と、晩式土器期の石器群成立までの空白の2千年間の間隙を埋めるものが含まれているのか、もう少し同様の時期の事例が積み重なってから、途別7遺跡出土の遺物について再度、見直す必要性を感じている。

（富永）



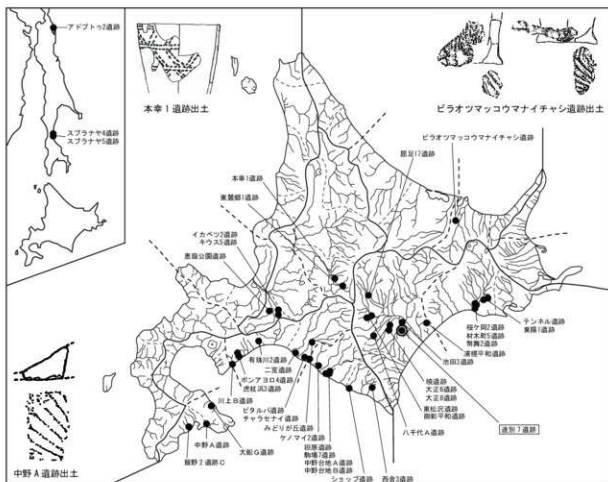
図VII-1 竪穴住居の構造模式想定図(断面図)



図VII-2 竪穴住居の炉の位置

土器と石鏃・石槍・つまみ付きナイフの関係図							
	床	炉覆土	床下	床面	覆土下層	覆土中層	覆土上層
H-3 (8231±28)							
H-6 (8217±29)							
H-5 (8204±29)							
H-4 (8177±28)							
H-2 (8129±29)							
H-6				 (床覆土)			
H-7							
							H-11 
							H-12 

図Ⅶ-3 土器と石鏃・石槍・つまみ付きナイフの関係図



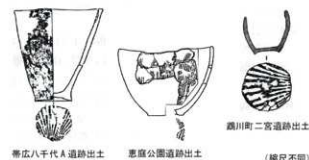
表Ⅶ-1 テンネル・晩式土器出土遺跡一覧表

番号	地域	市町村名	遺跡名	報告年度	調査団体
1	遺跡	屈根市	中野A遺跡	1977	屈根市教育委員会
2	遺跡	香川市	川上1遺跡	1988	北海道博物館文化財センター
3	白老町	屈ヶ岡2遺跡	1990	白老町教育委員会	
4	白老町	有縁川2遺跡	1983	北海道博物館文化財センター	
5	遠矢	五小牧市	有縁川2遺跡	1979	北海道教育委員会
6	千歳市	キウス3遺跡	1995	北海道博物館文化財センター	
7	千歳市	イカベツ2遺跡	2015	北海道博物館文化財センター	
8	香川市	東郷公園遺跡	2004	香川市教育委員会	
9	中富良野市	本郷1遺跡	1987	中富良野市教育委員会	
10	富良野市	東郷1遺跡	1987	富良野市教育委員会	
11	釧路市	二宮遺跡	1981	アイヌモリ	
12	白鳥町	ビタル6遺跡	2002	門別町教育委員会	
13	白鳥町	チャウセタイ遺跡	2009	白鳥町教育委員会	
14	白鳥町	ケノマイ2遺跡	2015	白鳥町教育委員会	
15	平取町	みどりが丘遺跡	1997	平取町教育委員会	
16	新ひだか町	物産7遺跡	1982	管内町教育委員会	
17	新ひだか町	中野台地B遺跡	1985	管内町教育委員会	
18	新ひだか町	中野台地A遺跡	1985	管内町教育委員会	
19	新ひだか町	ショップ遺跡	1995	三石町教育委員会	
20	釧路市	西倉3遺跡	1894	北海道教育委員会	
21	新十郎町	屈足17遺跡	2016	北海道博物館文化財センター	
22	釧路市	横瀬平和遺跡	2012	管内町教育委員会	
23	釧路市	有難公園遺跡	1989	管内町教育委員会	
24	池田町	池田1遺跡	1994	池田町教育委員会	
25	道南	南広市	大正6遺跡	2000	南広市教育委員会
26	南広市	大正6遺跡	2000	南広市教育委員会	
27	南広市	八千代A遺跡	1995	南広市教育委員会	
28	南広市	軟巻7遺跡	1982	十勝支庁教育委員会	
29	釧路市	横瀬平和遺跡	1971	横瀬町教育委員会	
30	釧路市	屈ヶ岡2遺跡	1980	釧路市博物館文化財センター	
31	釧路市	材木町5遺跡	1980	釧路市博物館文化財センター	
32	釧路市	有縁川2遺跡	2000	釧路市博物館文化財センター	
33	釧路市	東郷1遺跡	2006	北海道博物館文化財センター	
34	釧路市	ナンネル遺跡(第1地)	1984	釧路考古学研究会	
35	美幌町	シラウツマッコウマナイヤン遺跡	1884	美幌町教育委員会	
36	サハリン	スプラナヤ4遺跡	2015	東京大学大学院	
37	サハリン	スプラナヤ5遺跡	2016	東京大学大学院	
38	道南	屈野市	大正6遺跡	2024	管内町教育委員会
39	北見市	屈野2遺跡(第1地)	2014	北海道博物館文化財センター	
40	道南	遺跡1遺跡	2024	北海道博物館文化財センター	



サハリン島の前期新石器土器

1～4: スプラナヤ5遺跡、5・6: アドプト2遺跡、7～11: スプラナヤ4遺跡
「日本列島北道域における新石器」内田 2015 より引用



帯広八千代A遺跡出土

恵庭公園遺跡出土

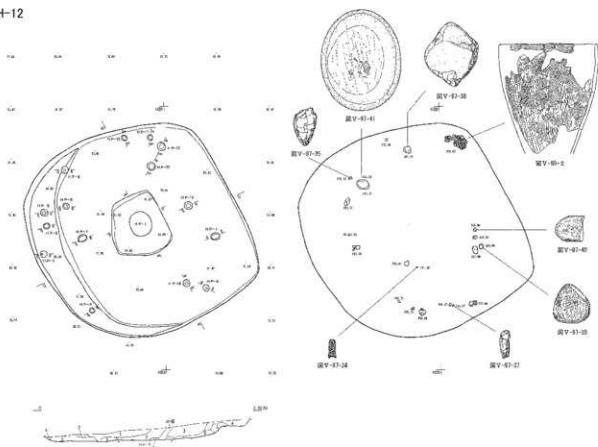
鶴岡市二宮遺跡出土

(縮尺不同)

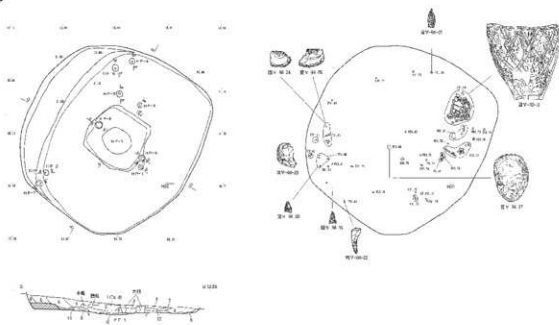
図Ⅶ-5 早期テンネル・晩式出土遺跡分布 (屈足 17 遺跡 2017 に加筆)

千歳市イカベツ2遺跡

H-12



H-10



図Ⅶ-6 千歳市イカベツ2遺跡の竪穴住居跡 (H-10に加筆)

引用・参考文献

(報告書) 年代順

- 1979 幕別町 『南勢遺跡』 幕別町教育委員会
 1982 静内町 『胸場7遺跡に於ける考古学的調査』 静内町教育委員会
 1983 幕別町 『猿別C遺跡』 幕別町教育委員会
 1984 幕別町 『古舞4遺跡』 幕別町教育委員会
 1985 幕別町 『札内1遺跡』 幕別町教育委員会
 1985 静内町 『清水丘遺跡に於ける考古学的調査』 静内町教育委員会
 1989 幕別町 『札内D遺跡』 幕別町教育委員会
 1990 帯広市 『帯広八千代A遺跡』 帯広市教育委員会
 1991 幕別町 『札内K遺跡』 幕別町教育委員会
 1992 芽室町 『小林遺跡-A・B地点-』 芽室町教育委員会
 1994 池田町 『池田3遺跡 続』 池田町教育委員会
 1997 『女満別町 中央A遺跡』 女満別町教育委員会
 1998 清水町 『東松沢遺跡』 清水町教育委員会
 1998 『千歳市 キウス5遺跡(5)』 A-2地区 北埋調報125(財)北海道埋蔵文化財センター
 1999 幕別町 『日新F遺跡』 幕別町教育委員会
 2000 幕別町 『札内N遺跡』 幕別町教育委員会
 2000 『芽室町 小林遺跡』 芽室町教育委員会
 2002 門別町 『ビタルバ遺跡』 門別町教育委員会
 2005 幕別町 『札内K遺跡Ⅱ』 幕別町教育委員会
 2005 『釧路市幣舞2遺跡調査報告書』 1 釧路市埋蔵文化財調査センター
 2006 幕別町 『札内K遺跡Ⅲ』 幕別町教育委員会
 2006 『釧路町 東陽1遺跡』 北埋調報230(財)北海道埋蔵文化財センター
 2009 『釧路市幣舞2遺跡調査報告書』 2 釧路市埋蔵文化財調査センター
 2012 清水町 『御影平和遺跡』 清水町教育委員会
 2015 日高町 『ケノマイ2遺跡』 日高町教育委員会
 2017 『新得町 屈足17遺跡』 北埋調報339(公財)北海道埋蔵文化財センター
 2018 『千歳市 イカベツ2遺跡』 北埋調報348(公財)北海道埋蔵文化財センター
 2009 『日高町 チャラセナイ遺跡』 日高町教育委員会

(論文等) 年代順

- 1965 明石博志 『晩遺跡-帯広晩台地遺跡調査報告-』 『郷土十勝5』
 1985 佐藤誠敏 『佐々木(茂)コレクション2-更別町・幕別町の遺物-』 『帯広百年記念館紀要』 第3号
 1990 北沢実 『八千代A遺跡出土の縄文Ia期の土器群について』 『帯広 八千代A遺跡』 帯広市教育委員会
 1991 原田昌幸 『熱帯系土器様式』 考古学ライブラリー61 ニュー・サイエンス社
 1997 西幸隆 『北海道道東部における縄文早期前半の土器群-特にテンネル・晩式の土器について-』 『生産の考古学』 同成社
 2004 富永勝也 『縄文文化早期』 『北海道考古学』 第40輯
 2007 佐藤宏之 『公開シンポジウム「縄文文化の成立-草創期から早期へ」予稿集』 東京大学大学院
 2008 佐藤宏之 『縄文文化の構造変動』 六一書房
 2009 北沢実・大島居千鶴 『十勝地域の縄文土器概観』 『帯広百年記念館紀要』 第27号
 2011 国木田大 『北海道における縄文時代年代研究の現状と課題』 『北海道の縄文文化研究の今』 北海道考古学会
 2014 大貫静夫・福田正宏編 『環日本海北回廊における完新世初頭の様相解明』 東京大学大学院
 2014 国木田大 『石刃族土器群の年代』 『環日本海北回廊における完新世初頭の様相解明』 東京大学大学院
 2014 富永勝也 『縄文早期の土器群(道西)』 『環日本海北回廊における完新世初頭の様相解明』 東京大学大学院

- 2014 山原敏郎 『北海道東部の縄文時代早期土器－前半の型式群について－』
『環日本海北回廊における完新世初頭の様相解明』東京大学大学院
- 2014 及川穰 『日本列島における出現期石器の型式変遷と広域連動』『物質文化』94 物質文化研究会
- 2014 工藤雄一郎 『ここまでわかった縄文人の植物利用』国立歴史民俗博物館 新泉社
- 2018 夏木大吾 『北海道における縄文時代草創期文化』『論集忍路子』論集忍路子研究会
- 2014 佐々木由香 『縄文人の植物利用－新しい研究法からみえてきたこと』『ここまでわかった縄文人の植物利用』新泉社
- 2015 福田正宏 『日本列島北辺域における新石器／縄文文化のプロセスに関する考古学的研究：湧別市川遺跡の研究』
湧別市川遺跡調査チーム
- 2015 内田和典 『ロシア極東地域の更新世末から完新世初頭の土器研究』『日本列島北辺地域（略）』東京大学
- 2017 岡本東三 『縄紋時代早期 押型紋土器の広域編年研究』雄山閣
- 2018 小林謙一 『縄紋時代草創期・早期土器付着物の同位体比の検討』『紀要』史学第 63 号（通巻第 271 号）
中央大学文学部
- 2019 安斎正人 『縄紋時代史－地域集団の繁栄－』散文舎
- 2019 小畑弘己 『縄文時代の植物利用と家屋害虫 匠法のイノベーション』吉川弘文館
- 2020 大工原豊・長田友也・達石徹 『縄文石器提要』ニュー・サイエンス社
- 2020 富永勝也 『北海道縄文時代の石器（早期）』『縄文石器提要』ニュー・サイエンス社
- 2020 橋本勝雄 『出現期の石器に関わる新たな資料群の発見とその意義－出現期の石器の研究－(3)』『研究連絡誌』
千葉県教育振興財団文化財センター
- 2022 高橋龍三郎ほか 『科学で読み解く縄文社会』同成社
- 2024 富永勝也 『縄文早期北海道南部の大集落中野 A・B 遺跡の土器変遷』縄文社会の探究 高橋龍三郎先生古稀記念論集
高橋龍三郎先生古稀記念論集刊行会 六一書房
- 2024 小林謙一・富永勝也 『本古内町出土試料の AMS 法炭素 14 年代測定』『北海道考古学』第 60 輯
- 2024 夏木大吾 『縄文時代草創期・早期』『北海道考古学』第 60 輯
- 2024 梶田祐三 『旧石器文化から縄文文化へ 掘井洞窟』『遺跡を学ぶ』169 新泉社

写真図版



調査前状況 (2024 年 6 月 25 日撮影)



表土除去終了状況 (2024 年 7 月 8 日撮影)



調査状況 (2024 年 7 月 26 日撮影)



調査状況 (2024 年 8 月 6 日撮影)



調査状況 (2024 年 8 月 21 日撮影)



調査状況 (2024 年 9 月 19 日撮影)



調査状況 (2024 年 10 月 1 日撮影)



調査終了状況 (2024 年 10 月 5 日撮影)

調査進行状況

図版 2



B 調跡床面 プラン検出状況 S → N



縦長剥片出土状況 N → S



調査状況 W → E



縦長剥片出土状況 SW → NE



土層断面 NE → SW



B 調跡と土層断面 SW → NE



調査状況 S → N



完掘 E → W

H-1 の調査



土器出土状況 SW → NE



土器下黒曜石フレイク出土状況 SW → NE



土層断面 S → N



調査状況 E → W



調査状況 W → E



炉 炭化材検出状況 W → E



炉 土層断面 S → N



完掘 E → W



土層断面 E → W



土層断面 SW → NE



床直上フレイク出土状況 NW → SE



土器出土状況 NW → SE



炉 検出状況 E → W



炉 土層断面 NE → SW



炉 掘り方検出状況 N → S



調査状況 N → S



土器出土状況 W → E



遺物出土状況 NE → SW



土層断面 SW → NE



調査状況 NE → SW



床面検出状況 E → W



炉 検出状況 S → N



床下遺物出土状況 NW → SE



完掘 NE → SW



土層断面 NE → SW



床面土器・床下黒曜石フレイク出土状況 SE → NW



床面土器出土状況 W → E



土器下床面断面 NW → SE



炉 土層断面 SW → NE



入口構造 検出状況 NE → SW



床面検出作業 E → W



床下遺物出土状況 E → W



調査状況 NE → SW



土層断面 NE → SW



床面検出状況 E → W



床下黒曜石フレイク出土状況 E → W



床面土層断面 SW → NE



炉 土層断面 SW → NE



床下調査状況 W → E



床下遺物出土状況 W → E



H-7 土層断面 SW→NE



H-7 床面検出状況 N→S



H-7 炉 検出状況 N→S



H-7 比熱チャート 検出状況 NE→SW



H-7 床下遺物検出状況 SE→NW



H-8 土層断面 NE→SW



H-8 床面検出状況 N→S



H-8 床下台石直下のフレイク出土状況 NW→SE



H-8 床下石斧出土状況 NW→SE